

通所介護太陽と鳩たち 個別機能訓練経過・方向性 No 1 (H30年 〇月〇日 策定)

メンバー氏名 ○ ○殿 (〇〇才) (要介護4) 担当介護支援専門員 ○〇 氏

機能形態障害 : 下腿皮膚の弱さ・左肩腱板損傷 体幹、下肢の筋力低下・骨盤変形・認知判断の低下	生活障害 : 入浴の介助が必要・一人で留守番 ⇒できない。歩行不全・トイレ排泄の見守り
自宅での生活機能・状況 (生活自立度 A2) (認知症自立度 I~II) ベッドから自分で起きてピックアップウオーカーを活用して見守り少ない支援でトイレへ行く。両手を前から引かれれば30mほどを歩幅は狭いが何とか歩くことができる。が骨盤周囲は弱い。捕まれば25cmの台を上り下りできる。両手で製作作業ができる。右手で食事や塗り絵に取り組める。文章を模写できる。が、左肩は固く(他動でも屈曲30度外転30度でフローズン)テーブル上に保持できず補助的に使うことが難しい。食事は一人でも出来るが口の中にため込み気味で誤嚥の危険がある。昔のことはよく覚えていて良く話すが、最近の記憶は混乱したりすり替わったり、自分なりの判断のこともありご家族に状況を確認していく必要がある。下腿の皮膚はパラフィンのように弱く傷つきやすい。要注意	
本人の望む暮らし 希望される機能改善内容:本人: 左の肩・腰の痛みなく一人でトイレへ行く機能を保ちたい。人と話をすることは好き。元気でいて娘たちに心配をかけず又畑仕事ができるようになりたい。 長女さん: 店の仕事があり日中手をかけられないが、本人には健康で歩く力を保ちトイレは自分で出来てほしい。通常の食事をしっかり食べて元気でいてもらいたい。日中刺激のある場を望む。	
担当ケアマネジャーさんよりの依頼: 娘さん方の負担を少なく自宅で過ごし、可能な限り機能改善を望む	

支援開始 H30年2月 より

	現状 : 生活状況・改善変化・リスク等	計画 : 個別機能訓練、生活支援
起居、移乗	ベッドやいすから立ち上がるには何か引っ張るようにして立つ。骨盤周囲弱い。	基礎訓練: 両上肢・骨盤周囲を良くほぐし、腰上げや足のけりだし等で支持性強化。左肩はもろく慎重にモビライゼーション後アクティブに動かしてもらう。
移動、歩行	捕まれば自力で20mほどを歩くが、歩幅は20cm以下で足首も固く重心が後方にひかれやすい	基本作業、練習: 支え立ちよく伸びる。歩幅大きく歩く、段を上り下りする練習。方向転換練習。横歩き、両手作業練習。
食事	きざみ食・おにぎりを自力で食べるが左手はテーブルに上がらない 食欲あり 1600Cal	(自宅生活での生活行為への支援) 応用作業、活動: 認知、構成課題、計算や文章模写等認知遂行を強化する。外食・園芸活動
排泄	尿便意はありトイレで見守り・支援で排泄するが下衣が上げ下げしにくい	社会適応作業、支援: 娘さん方の生活に応じたサポート 他メンバーとの良い関係づくりの支援
入浴	支援場面で介助一般浴槽入浴。洗体介助	
個別機能訓練 上肢帯の機能・作業	*利用中良い座位で両手を使い作業に取り組む(塗り絵・文章模写・制作活動・オセロ) *ほぐし、支持強化、立位、移乗練習 *ピックアップウオーカー・杖歩行練習。	
活動 社会参加 その他	他者との会話。茶話会。オセロやカードゲーム音楽を聴く 歌を歌う。文章を写し書きできる 昔の友人のことをよく覚えている	

太陽と鳩たち事業所内検討者 機能訓練担当: ケア担当: 管理者:

総合的な個別機能改善・支援方向性 左肩の機能改善・両下肢、体感の機能を強化し自宅内移動・トイレ行為が楽にできるようになる。刺激のある生活で気持ちや脳機能が活性化。体力が伸び元気になる。			
機能改善の課題	個別機能訓練・個別支援	事業所内活動	御本人・家族取り組み(自宅支援)
左肩の機能改善	10分モビライゼーション・アクティブ練習	両手作業	棒体操・タオル活動
下肢体幹支持強化	10分骨盤・下肢のほぐし、支持性強化 10分×2 立位練習	平行棒利用し休み入れつつ練習	捕まっでの立位伸び上がり活動
呼吸器機能・口腔周囲改善	活動中に歌や会話 呼気持続 8秒程度から改善へ	評価や促進、良い姿勢での座位	良い姿勢での食事 使いやすい食器の工夫
体力向上	日中活動支援全般	体調注意	連携して健康支援・参加促進

御利用状況・連携事項・生活支援への提言等 担当ケアマネとの連携

一緒に相談しながら ほかの事業所とも協働して生活を支え 健康な暮らしへサポートします。

上記の説明を受け、承認し、スタッフと共に健康で、より自立した暮らしを目指します

年 月 日

本人

家族